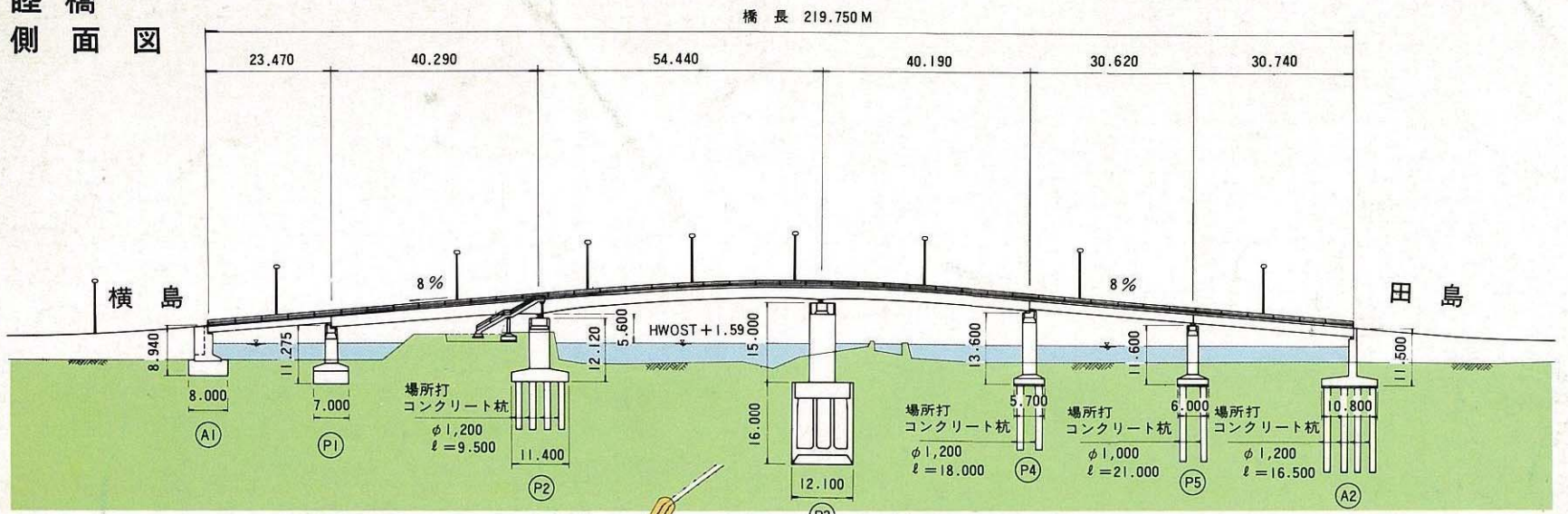


開 通
1979.8.10

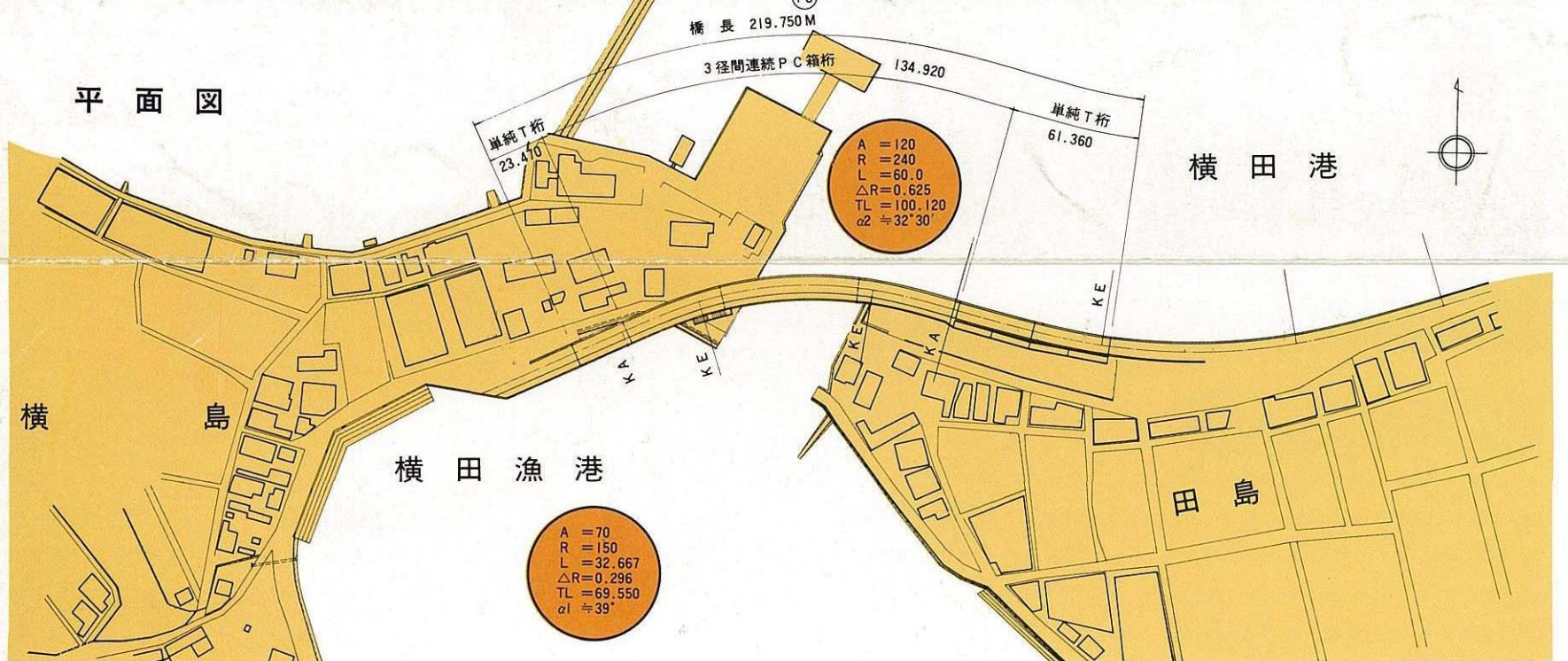
むつみ ばし 睦 橋

広 島 県
内 海 町

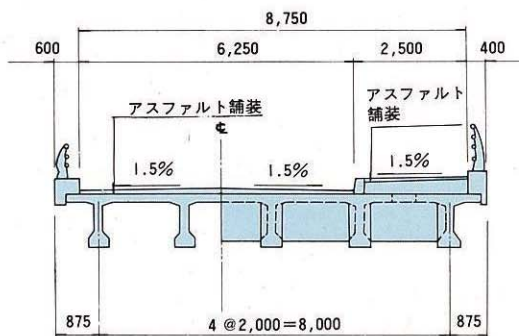
睦 橋
側 面 図



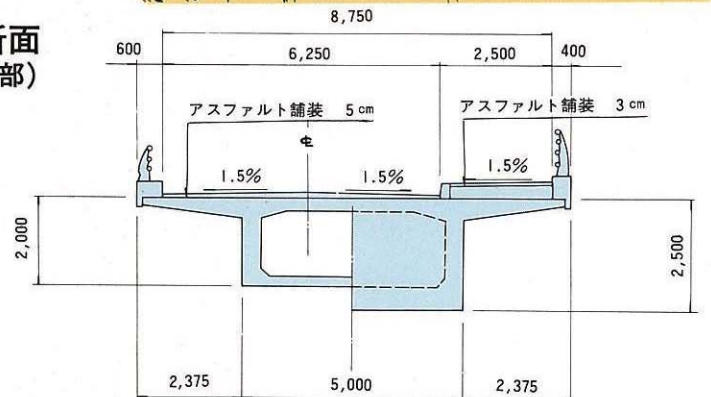
平 面 図



標準横断面
(側径間部)

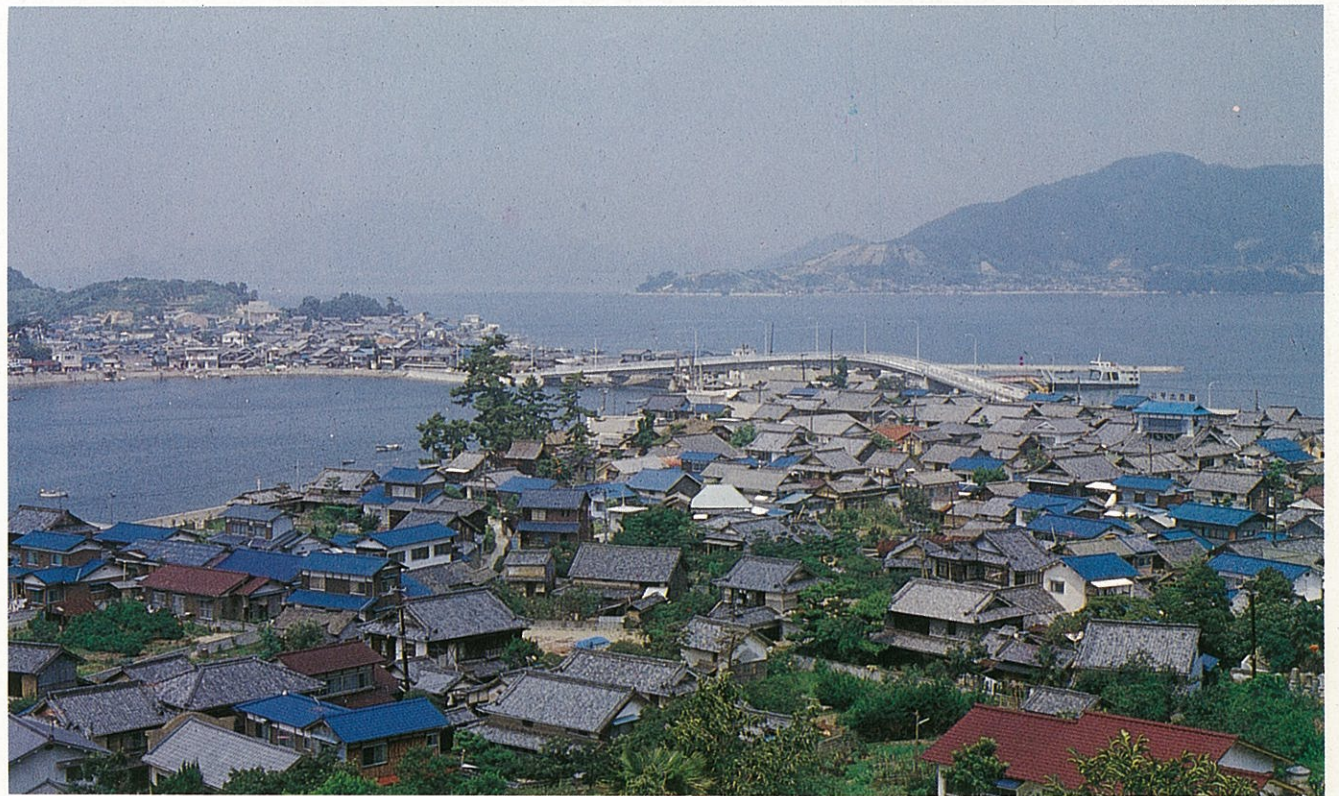


標準横断面
(中央径間部)



内海町の概要

交通	国鉄山陽本線 福山駅からバス40分、 沼隈町よりフェリー5分
面積	12.77Km ²
人口	4,655人(1,487世帯) — 昭54.4.1現在 —
産業	第1次産業 370人 第2次産業 921人 第3次産業 641人 — 昭和50年国勢調査 —



(内海町全景)

「青い海と緑の島」内海町は、広島県の東部、沼隈半島約1kmの海上に東西約7.5km、南北約3.5kmの二つの島(田島、横島)からなり、東経133度21分、北緯34度21分に位置し、島と島は陸橋により結ばれている。昭和30年3月町村合併促進法により、旧田島村と横島村が合併し現在の内海町となる。

気候は温暖でしかも瀬戸内海特有の風光明媚な自然環境に恵まれており、沿岸漁業と農業を主要産業とする。豊かな緑と澄みきった海は、レクリエーション地としても最適である。



(S26.3.完成 旧陸橋)

陸橋の沿革

田島村、横島村の人々は防地瀬戸を渡船により往来していましたが、昭和26年3月橋長45.70m、巾員3.00mの可動式鋼製トラス橋が完成し島と島を結ぶ瀬戸内海唯一の開閉橋として広く知られると共に「陸橋」の名のとおりその当時の両村の交流を深め、昭和30年3月町村合併による内海町誕生の立役者となりました。

近年の生活状況の変化に伴って交通量の増加及び大型化によって交通時の制限が島内経済に大きく影響しています。

これらの障害を排除するため、橋長219.75m、巾員8.25mの橋梁建設の気運が盛り上がり昭和48年から事業に着手し、昭和54年に完成することとなりました。この橋の完成により海陸の交通制限は全廃され、新しく計画されている本土との架橋、内海大橋とともに新しい時代の地域振興に大きく貢献するものでしょう。

陸橋の概要

事業及び路線名	橋梁整備事業、田島循環線
施工位置	広島県沼隈郡内海町：町～防地
施工年度	昭和48年度～昭和54年度
総事業費	7億6千4百万円
橋長	219.75m
有効巾員	8.75m・車道巾員 6.25m、歩道巾員 2.50m
道路構造規格	第3種4級
橋格	一等橋
桁下空間	大潮高潮面(HWOST+1.59m)から5.60m
上部工構造型式	主径間 3径間連続PC箱桁橋。(デビダグ工法) 側径間 単純PCT桁橋。(フレシナー工法)
下部工構造型式	重力式橋台、場所打杭基礎……………2基 円柱張出式橋脚、場所打杭基礎……………4脚 円柱張出式橋脚、ニューマチックケーソン基礎…1脚

主要材料

上部工			
主径間	セメントコンクリート ($\sigma_{CK}=400\text{kg/cm}^2$)	875.1m ³	
(3径間)	PC鋼棒 (SBPR 80/105・ $\phi 32$)	67.6t	
	鉄筋 (SD 30)	107.7t	
側径間	セメントコンクリート ($\sigma_{CK}=400\text{kg/cm}^2$)	251.8m ³	
(3径間)	PC鋼線 (12- $\phi 7 \phi 45$)	11.1t	
	鉄筋 (SD 30)	30.8t	
下部工			
橋台	セメントコンクリート ($\sigma_{CK}=210\text{kg/cm}^2$)	683.8t	
(2基)	鉄筋 (SD 30)	42.6t	
	ベント杭 ($\phi 1200$)	11本	
橋脚	セメントコンクリート ($\sigma_{CK}=210\text{kg/cm}^2$)	2,201.9m ³	
	鉄筋 (SD 30)	172.5t	
	ベント杭 ($\phi 1200$)	24本	
	リバース杭 ($\phi 1000$)	1本	
	ニューマチックケーソン (12.10×8.10)	1基	

施工

設計施工監督	広島県福山土木建築事務所
施工上部工	オリエンタルコンクリート株式会社
施工下部工	株式会社 大本組